

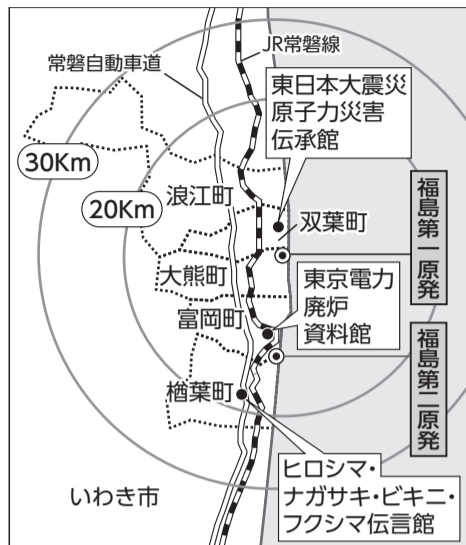
福島原発事故から14年 被災者置きざりにしない復興を

政府が新しいエネルギー基本計画で原発を「最大限活用」していく方針を示したなか、「東京電力福島第一原発事故から14年。福島で続く被害を明らかにする被災地ツアーとシンポジウム」(福島県革新懇、全国革新懇、ふくしま復興共同センター共催)が5月17、18日におこなわれました。

今も除染されず放置

福島県は全国でも3番目に広く、東側の阿武隈高地から太平洋沿岸までが「浜通り」です。東京電力福島第一原発は浜通りの双葉町と大熊町にまたがり、第一原発は浪江町と楡葉町にまたがって建っています。(左図)

JR福島駅を後にしたバスが川俣町の阿武隈高地に差し掛かると、車内に置いた空間線量計が絶えず「ピーピー」と放射線を感じさせる音を響かせました。呼びかけ、8000人以上が避難してきまし



た。公民館やお寺などに入りきれず、車に留まる人もいました。何も知らない住民は薬をもらいに診療所に並んだり、子どもたちは外で遊んでいました。ところが放射線量が高いことが分かり、3日後さらに避難するようになった。その後、浪江町は広い帰還困難区域が設けられ、立ち入

りが制限されました。津島地区にはかつて450世帯、1400人が居住していました。が、国はわずか1.6%、1.53平方キロを「復興拠点」として除染し、立ち入り解除、残る98%は除染もせず放置しています。ガイドを努めた元浪江町町議の馬場さんはい、「政府は除染もしないまま、力で押し通そうとしている」と憤りま

ホットライン

ふるりに帰りたい
原告団に参加する3人は口々に思いを語りました。佐々木茂さん(副団長)は「元の津島を返してほしい。帰ってきたら思いで裁判を闘っています。しかし国はわずかな土地を除外しただけで、もうお金を出す必要はない」と言う。放射線をまき散らし、それを取り

核も原発もない社会に

福島第一原発が立地する楡葉町には「ヒロシマ・ナガサキ・ヒキノ・フクシマ伝言館」があります。安齋育郎・立命館大学名誉教授とともに、1973年から福島原発反対運動に取り組んできた故・早川篤雄住職が、2021年に私財を投じて宝鏡寺内に建設しました。館内には福島原発建

設から事故、被災までの写真や住民運動の資料、さらに第五福竜丸水爆実験被災事件や「原爆と人間」のパネルなどが展示されています。住職の妻で伝言館副館長の早川千枝さんは「夫は全国どこでも平和な生活が続けられるよう、原発はなくなさなければならぬ、そのことをみなさんに分かってもらいたい」と常々話していました」とあ

政治の転換で
18日のシンポジウムでは、全国から450人が参加。住民運動や原発訴訟の原告、研究者や国会議員が立地県やたたいを報告しました。自民党の長期政権のもとで、企業・団体からの政治献金のほとんどが自民党に集中し、政治が歪められて

り、被害者切り捨ての復興対策や無謀な原発推進政策への転換などに表れていることが明らかになりました。そして住民本位の復興、原発ゼロ社会へ向かうために、政治の転換が必要であることが共有されました。

除くのは当然のことではないでしょうか。三瓶さんも「原発を次世代に残してはいけない」と強く思います。ところが最高裁も原発事故の国の責任を認めない。将来世代を守るために法律を作り、国の責任を明確にさせ、原発再稼働を止めさせたい。



今も放置されたままの建物があちこちに(楡葉町)

高岡町にある「東京電力廃炉資料館」は、かつて原発のPR施設だったところ。今は原発事故と廃炉事業について展示しています。映像とともに「過酷事故を起こし、申し訳ありませんが、東京電力はいます。新瀧・柏崎刈羽原発の再稼働を急ぎ、国もそれを後押ししています。

も遅く町役場が戻った双葉町では、朽ち果てた建物が放置され、更地になった広大な土地には国や町が多額の補助金を誘致したIT企業などが点在。人の気配がありません。真新しい「東日本大震災・原子力災害伝承館」を見学しました。ガイド

いること、原発関連企業から自民党に10年間で70億円の献金があった。全国から450人が参加。住民運動や原発訴訟の原告、研究者や国会議員が立地県やたたいを報告しました。自民党の長期政権のもとで、企業・団体からの政治献金のほとんどが自民党に集中し、政治が歪められて

田植え体験
半数以上「初めて」
【原本部 飯森博子】5月18日の天気予報「雨を吹き飛ばし、晴天の中、大人17人、学生1人、子ども10人、農民連3人の総勢31人でぎやかに田植えをしました。初体験の子もたくさん大人が半数以上、農民連の方から苗の持ち方、植え方、田んぼへの入り方などの説明を受け、いぎぬるめるの土の中に足を踏み入れ、初めての感触に歓声をあげる子どもたち。苗を植える十字の印をつける「ころがし」は力こぶが必要で腰が痛くなり大変な作業。当日の水の高さの調整など、一つひとつの工程を経ての

田植え体験です。能登地震により、お米を作れない農家も多く、お米高騰の中、自分が植えた苗が大きくなり、自然の恵みの中でお米になり、毎日のご飯がおいしく食べれることを親子で学びました。

田植え体験
お米を作れない農家も多く、お米高騰の中、自分が植えた苗が大きくなり、自然の恵みの中でお米になり、毎日のご飯がおいしく食べれることを親子で学びました。

田植え体験
お米を作れない農家も多く、お米高騰の中、自分が植えた苗が大きくなり、自然の恵みの中でお米になり、毎日のご飯がおいしく食べれることを親子で学びました。

田植え体験
お米を作れない農家も多く、お米高騰の中、自分が植えた苗が大きくなり、自然の恵みの中でお米になり、毎日のご飯がおいしく食べれることを親子で学びました。

女性&メディア

隔月掲載

高江洲洋子 琉球新報 総合編集局長 編成グループ 副グループ

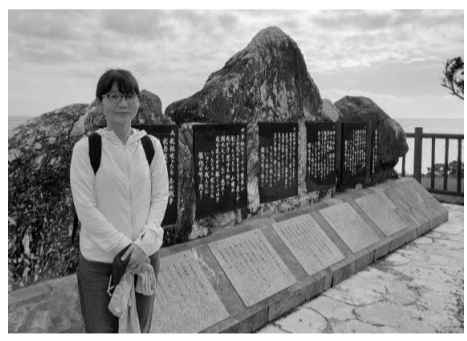


取材や親戚の集まりで沖縄戦を体験した高齢者世代から「私は艦砲め喚えー残さー」という言葉を何度か聞いたことがある。「鉄の暴風」とたとえられるほど苛烈な米軍による艦砲射撃からの生き残りである。という意味があるようにだ。

島唄に込められた願い

れた。

「若さる時ねー 戦争ぬ世若さる花ん 咲ちゆーさん 撃ぬめになてい」で始まるしまくとぅばの歌詞は、家も先祖も親兄弟も艦砲射撃の標的になり着る物、食べるものも失ったという言葉から始まり、沖縄戦を生き延び戦後後をたくましく生きる様子、戦争を恨み平和への願いが込められている。五音の歌詞も印象深い。「恨(ご)の(ご)でいん 悔(ご)やでいん 飽き(ご)しゃらん 子孫(ご)未(ご)代(ご)そん(ご)ま(ご)ち(ご)でいん 遺言(ご)い(ご)ん(ご)さ(ご)な」



沖縄県読谷村楚辺のユウバンタ浜に建つ沖縄民謡の名曲「艦砲め喚えー残さー」の歌碑。左は筆者

で家族を失い日本復帰の翌年に米軍車両との交通事故で他界した。娘のひがけいさんが姉妹ユニットの「でいん娘」が「艦砲め」をついた広まっている。

2013年、比嘉恒敏さんの出身地、読谷村楚辺地区のユウバンタ浜に「艦砲め」の歌碑が完成した。当方は4年ほど前、母と姉と歌碑を見

いた。屏風状の歌碑には五音までの歌詞が刻まれている。沖縄戦中の1945年4月1日に、米軍が上陸した海岸に近い場所にて建てられている。80年経ても沖縄戦の爪痕はいえぬ。広大な米軍基地があるゆえ米軍による事件事故は繰り返されている。米軍との事故で他界した恒敏さんの人生を重ね、沖縄の不条理さを感じずにはおられなかった。沖縄を訪ねる機会があればぜひ多くの人に足を運んでほしい。

沖縄は梅雨に入り、月桃がたわな美を付け始めている。日本軍の組織的戦術が終わったとされる6月23日は「慰霊の日」。慰霊月間を迎えている。



子どものコーナーも▲楡葉

相を訴えたDVD『にんげんをかえせ』を上映しました。家族ぐるみの参加や近くの留守家庭児童教室から低学年約20人が散歩時間を利用して指導員と立ち寄りてくれました。

被爆者の方が「戦争は嫌だよね。戦争反対の人」と聞くと、男の子が両手両足を挙げて「はい」と答えていたのが印象的でした。子ども向けのお菓子釣りゲームや綿菓子等、楽しいコーナーも準備しました。

1部は2部形式で、小谷孝子さんが腹話術の「人形あつちゃん」にも被爆体験を語りました。2部は、①被爆者と語り②絵本の読み聞かせ③折り鶴を広島に届けよう④木の葉のように焼かれて(新婦人広島県本部 読み合わせ)⑤新婦人を知ろうの5つのコーナーにわかれて交流しました。



デコ審査で特別賞▲岩手

【盛岡支部】支部は5月1日、第96回メーデー参加後に「軍拡反対憲法署名」の署名行動を1人で

おこない、37署名集めました。署名行動では、メーデーの「デコレーション審査」で特別賞をもらった垂れ幕やプラカードを飾りました。今年はお気も良く、さすがしい気持ちで行動しました。

教育課長と係長が対応し、北見支部からは永田支部長と岩瀬事務局長、子育て世帯の会員3人が参加しました。

【原本部 飯森博子】5月18日の天気予報「雨を吹き飛ばし、晴天の中、大人17人、学生1人、子ども10人、農民連3人の総勢31人でぎやかに田植えをしました。初体験の子もたくさん大人が半数以上、農民連の方から苗の持ち方、植え方、田んぼへの入り方などの説明を受け、いぎぬるめるの土の中に足を踏み入れ、初めての感触に歓声をあげる子どもたち。苗を植える十字の印をつける「ころがし」は力こぶが必要で腰が痛くなり大変な作業。当日の水の高さの調整など、一つひとつの工程を経ての

田植え体験です。能登地震により、お米を作れない農家も多く、お米高騰の中、自分が植えた苗が大きくなり、自然の恵みの中でお米になり、毎日のご飯がおいしく食べれることを親子で学びました。

田植え体験です。能登地震により、お米を作れない農家も多く、お米高騰の中、自分が植えた苗が大きくなり、自然の恵みの中でお米になり、毎日のご飯がおいしく食べれることを親子で学びました。

田植え体験です。能登地震により、お米を作れない農家も多く、お米高騰の中、自分が植えた苗が大きくなり、自然の恵みの中でお米になり、毎日のご飯がおいしく食べれることを親子で学びました。



総勢31人でぎやかに▲石川

【藤岡支部みどり班 小野里正子】オープンガーデンをしている読者のお宅にお邪魔して、花とみどりの風吹かれて▲群馬

【米子支部 柳瀬和子】5月18日、会員、ゲスト合わせて22人で体験しました。ミシンを使ってモモンガカード作り、絵紙、新聞をぎり、絵スクウェアステッ、高校生の原爆の絵展示、ママさんバザー、抹茶コーナー。2時間体験し、抹茶で休憩しました。

【米子支部 柳瀬和子】5月18日、会員、ゲスト合わせて22人で体験しました。ミシンを使ってモモンガカード作り、絵紙、新聞をぎり、絵スクウェアステッ、高校生の原爆の絵展示、ママさんバザー、抹茶コーナー。2時間体験し、抹茶で休憩しました。



人生初登山▲沖繩

【浦添支部 里道昭美】若い会員に励まされ初登山

先日の支部交流会で、若いMさんが山ガイドができること聞き、さっそくヤンパルの登山を計画しました。Sさんは手を挙げたものの、人生初登山に不安いっぱい。Mさんはシニアのガイドは初めてのこと。Mさんのリードで、お互いが初体験の楽しい山となりました。車中も先輩の話を聞きながら、さながら新婦人学校でした。

先日の支部交流会で、若いMさんが山ガイドができること聞き、さっそくヤンパルの登山を計画しました。Sさんは手を挙げたものの、人生初登山に不安いっぱい。Mさんはシニアのガイドは初めてのこと。Mさんのリードで、お互いが初体験の楽しい山となりました。車中も先輩の話を聞きながら、さながら新婦人学校でした。



5つのコーナーにわかれて▲千葉